

福祉リノベーションスクール

事業報告書



特定非営利活動法人 風雷社中

東京都赤い羽根共同募金 29 年度第一次 A 配分の助成を受けて実施しました



■目次

はじめに：実施団体の紹介	2p
1. ガイドヘルパーとは	3p
(1) 地域社会への役割	
(2) 障害のある人への役割	
(3) 障害のある人の家族への役割	
2. これまでの活動	4p
3. 事業概要	5p
4. 事業報告	6p
(1) 福祉リノベーションシンポジウム	
(2) 福祉リノベーションスクール	
(3) フォローアップ研修	
おわりに	6p



■はじめに：実施団体の紹介

風雷社中は、特定の状況（個人や家庭、地域）にあるために社会的に不利益な状況にさらされている人々が、一人ひとり大切な人間として認められ、自分らしく自由に生きられ、差別をされることなく、社会の一員として認められる社会を作っていく事を事業目的とします。

障害を持つ人々や、適切な体験や学習の機会を得ることが出来なかった様々な人々が、競争や特定の『価値』が基盤となっている社会構造の中で、不当な状態のまま生きていくことを社会から強いられ、弱者として位置づけられ、特殊な存在として分離されている状況にあると、風雷社中は考えます。

弱者のみが努力をして、その不当な状況を克服していくことは、困難です。

社会がそのあり方をシフトして、弱者として位置づけられている人々の権利が獲得されていくことが、社会が更なる進化を遂げていく事であると風雷社中は考えます。

これらの状況を変革して、上記の目的を達成していく為に必要なことは、ソーシャルインクルージョンを推進して、弱者分離の状況を改善し、競

争や特定の『価値』の交換のみが基盤ではない社会を作ることが必要であると風雷社中は考えます。

具体的には、障害のある人々が直接社会に参加していく為の支援活動を行い、社会の中で障害のある人となない人が接点を持ち、知り合いや仲間になれる機会を増やしていきます。

また、その支援の担い手は、専門職種を核にし、支援活動に未経験な人たちを積極的に導入していきます。このことにより、支援活動そのものが『接点』となり、支援が一般化していく仕組みを構築させます。

その為に以下の二つの事業を活動の主軸としていきます。

- ①障害を持つ人への外出支援や相談支援
- ②若者就業支援

この事業展開により、ノーマライゼーションを推進することと、支援の体制を社会全体で支えていく仕組みを生み出し、支援を支える社会へと変革していくことを目指します。

1. ガイドヘルパーとは

障害があるために単独での外出に困難がある人たちがいます。おとなも、こどももです。人によって障害の状況や外出先、外出にともなう必要な支援は様々です。その個々が必要としている外出に関わる支援を提供して、障害者の外出をサポートするのがガイドヘルプです。そしてガイドヘルプの中で、障害者と直接関わり、必要な支援を提供しながら一緒に外出をするのが、ガイドヘルパーです。

(1) 地域社会への役割

学校や就職の場面が重度の障害がある人たちは、障害のない人たちと分断されています。その為に、街づくりや、地域のあり方、文化的な活動のあり方は、街には障害のない人しかいないことを前提に積み重ねられてきています。

近年、重度身体障害のある人が地域での自立生活や積極的な社会参加を進めて、電動車いす等で街に参加し、様々な場面でバリアフリー化を訴えてきたことから、公共施設や公共交通機関のバリアフリー化が進みました。しかし、重度知的障害のある人の地域進出はまだまだ遅れていて、地域社会はまだまだ学習して変化していく機会を持っていない現状だと思っています。

知的障害のある人がガイドヘルパーと一緒に地域社会＝街に進出することで、地域社会は本来いるべきメンバー（重度知的障害のある人）と共に、あるべき在り方に変わりゆく事が可能になるのだと考えています。

(2) 障害のある人への役割

外出に際してサポートが必要な障害のある人は、ガイドヘルパーが利用できなければ家族等（主に親）のサポートで外出をすることになります。

ガイドヘルパーを利用して外出することで、外出のサポートに伴う負担を家族にかけることなく、自身のペースで外出することが可能になります。

このことにより、家族から自立して社会に参加していく機会を持つことにも繋がります。また、家族（主に親）の加齢より、介護力が衰えた時に、まだまだ外出欲求の盛んな障害当事者が、外出を我慢しなければならないなどと言う場面も見られます。

(3) 障害のある人の家族への役割

「子どもは何歳になっても子どもで、親は親」その関係は変わるものではありません。しかし、関係の在り方は子どもの自立の中で変わっていきます。親が「自分がいなければダメなんだ」「（支援するのは）自分じゃなきゃダメ」って思いを持つのは自然な事ですが、それだけでは障害のある子どもの人間関係は変わらず、自立をする機会を逸することになります。親以外のサポートを利用する事によって、自立をすすめる為の家族の関係性の変化が生じるのです。

また、常時サポートを必要とする人たちのサポートを家族（主に親）だけが担っていることにより、家族（主に親）は、自分自身が独立した個人として社会に関わりをもつ時間や機会、体力を失いがちになります。



2. これまでの活動

「2014年2月大田区障害福祉計画・第4期大田区障害福祉計画策定のためのアンケート調査報告書」を参照すると、大田区で暮らす知的障害のある人たちの64.2%が「ガイドヘルプを今まで通り、もしくは、もっと使いたい」、34.0%が「ヘルパーが足りない」と言っています。

また、大田区で活動しているサービス事業者の52.6%が「スタッフの確保が課題」だとし、サービスの依頼に対し50.0%が「対応できていない（断っている）ことが時々ある」「対応が全くできない状況にある」と言っています。

近年、障害者の社会参加を支える移動支援事業

の利用は、送迎支援と併せて急増しています。しかし、ガイドヘルパー不足から十分な対応ができないでいる状況が慢性化しており、これは公的に認められたサービスを利用できない障害者児がいるという深刻な状況です。

ガイドヘルパーを増やしてこのような状況を改善していく為にキャンペーンを2014年度より継続的に実施しています。ガイドヘルパーが増えているという実感はありますが、必要としている利用者に対してガイドヘルパーが不足しているという状況は変わりません。

<p>2014年度</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○通年でガイドヘルパー募集のチラシを地域の福祉作業所と連帯して10,000枚ポスティング。 ・目黒区のNPO法人はちくりうすと連帯して、東京都移動支援従業者養成研修を実施。参加費1,000円(テキスト代込)として参加のしやすさを強調。 ・修了者数：6名(1回実施)
<p>2015年度</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○2014年度から継続して受講料1000円(テキスト代込)で東京都移動支援従業者養成研修を年に3回実施。会場はCafeいろえんぴつ(就労継続B型)やエセなおおた(大田区男女平等推進センター)を使用。 ・修了者数：延べ36名(全3回実施)
<p>2016年度</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○共同募金全都A配分を受けて東京都移動支援従業者養成研修を500円(テキスト代込)で実施。各回定員15名で計画をしていたが、大きく上回る申し込みがあり各回で定員を増やすことに。今後移動支援事業への参入を検討している障害福祉サービス事業所の職員の受講も多数あり、移動支援事業を担う事業所を増やすことにも貢献できていると感じた。安定した研修の実施のために講師の育成も併せて行った。 ・修了者数：延べ107名(全6回実施) ○10月に当法人実施の東京都移動支援従業者養成研修の修了者を対象としたフォローアップ講習を実施。ガイドヘルパーは1対1の支援が基本であるため、横の繋がりを作ることを狙いとした。研修を修了したが就業に繋がる機会を失っていた人にも参加してもらい、実際に就業に繋がったケースもあった。 ・参加者：23名 ・チラシポスティングなどの広報で、地域一般に講座やガイドヘルパーの必要性を周知して講座への参加を促した。

3. 事業概要

4年目となった今回の研修では、これまで継続して実施してきたガイドヘルパー研修に障害平等研修（DET）と地域活動ワークショップを併せた福祉リノベーションスクールという形で実施しました。

まず、ガイドヘルパー研修の受講により、東京都指定の移動支援従業者（ガイドヘルパー）の研修課程を修了できるようにしました。この資格は短期間で修得が可能であるため、障害児者支援に馴染みのない層の入り口としては敷居を下げる事ができると考えています。

従来の研修でも低価格で受講ができることにより地域住民が気軽な学びとしてガイドヘルパー研修を修了して地域に知識を持った人を送り出す効果はありました。今回はそれに加えて雇用側と被用者側の両者に働きかけることにより、多様な支援者を受け入れる環境を作り、修了者を雇用に結びつけて定着させることを狙いとしました。

特に、障害者の人権について発見型の研修（DET）を通して、従来の移動支援従業者養成研修の講義では不十分であると感じていた障害の社会モデルの視点の獲得だけでなく、参加者自身が抱える状況を省みることに効果を見込んでいます。

地域のボランティアセンターやNPO団体が活動についてのレクチャーを併せて行うことで、ガイドヘルパーという街に出る仕事の中で、地域の社会資源を知ることや地域のNPO活動などへの

誘導を図ることを狙いとしている。

修了者を受け入れる事業者側も人材不足を訴える一方で職歴に空白期間のある者や転職の多い者の受け入れには消極的だと感じている。そのため、就業者側だけでなく、事業者にもアプローチをすることによって修了者が就業に繋がりがやすくなることを狙いとしている。

低所得者や短時間勤務を希望する者も就業できる環境を整えて公的支援の中でニーズの集中して人材が特に不足しやすい短時間の支援や土日などの支援の支えてくれる人々の可能性を広げるための取り組みとして事業者向けにも説明会を実施することにしました。

事業者の受け入れる意識を知ることによって、修了者が実際に就業する後押しとなることも期待していました。ただ就業に繋げるだけでなく、障害の社会モデルの視点の獲得や孤立の防止のために働きかけることによって、就業定着と支援者の質を高める効果を見込んでいました。

これまで、福祉と関わりの薄かった地域の様々な人材（ニート、フリーターなどが一時的に、また社会人がWワークとして）公的支援に関わる事で、障害児者支援の体験とスキルを習得し、地域で福祉活動を支えていく人材の育成を目的としています。

事業期間：平成29年9月～平成30年3月



4. 事業報告

(1) 福祉リノベーションスクール

- 第1回：2017年9月16日～2017年11月5日
第2回：2017年11月5日～2017年12月16日
第3回：2017年12月16日～2018年2月11日
第4回：2018年2月11日～2018年3月24日
※全4回実施、参加者のべ24名



① ガイドヘルパー研修

4年目なので安定した研修の実施のために新しい講師も招きました。現場経験の豊富な講師によるエピソードの紹介は、実際の支援状況を想像することができたと好評でした。事例の紹介、ロールプレイングが具体的イメージにつながり、受講者が自ら考えた後に共有するというワーク導入により講師と受講者の双方向のやり取りも芽生えて良い効果を生んだと感じています。

休憩時間やランチ会で気軽に質問に答えるなどの講師の対応が好評でした。



② 地域活動紹介のワークショップ

「地域活動の企画」をテーマに活発な意見交換が見られ、帰り道に地域でのイベントに参加をされた方がいました。また、地域の高齢者カフェ、コミュニティカフェ、おもちゃ図書館でのボランティア体験が実現しました。今後も地域コミュニティに理解者を増やし地域ネットワークの構築と障害理解の推進に努めます。

③ 障害平等研修 (DET)

障害の社会モデル、および合理的配慮の視点についてグループワークや映像を見てグループのメンバーと話し合いながら考えてもらいました。研修を通して実際に自らの行動を考えるパートがあり、研修後に会った際に実際に行動に移したという報告も受けました。

参加者が地域や職場に帰った時に更なる気づきにつながることを期待し、今後もノーマライゼーションの実現に近づくようにさらなる工夫をしていきます。

全体を通してスタッフも交えて受講者同士の懇談の機会を多く作ることができたので、連絡先を交換して修了後も連絡を取り合ってガイドヘルパーを実践している人もそうでない人も交えて自主的に会う機会を作っている方々もいます。横のつながりを作ることができたと実感しています。

充実した内容の企画を、助成をいただくことにより、参加費が500円という低価格で4回の研修を実施することができました。

(2) 福祉リノベーションシンポジウム

■2017年10月29日 大田区産業プラザPiO

■講師：田島誠一（日本福祉大学招聘教授）
中村和利（NPO法人風雷社中）

■参加者：16名

■プログラム

① 福祉人材をめぐる状況

- ・人材不足の現状 人材不足の原因と対応

② 働き方と働き人

- ・多様な働き方／ニート・フリーターなどの流動的労働層

③ 求めるべき職員像と多様性のある職場

- ・「完全無欠人」でなくても働ける／職場でもソーシャルインクルージョン

④ 集めるより辞めさせない

- ・育て方／集め方

暴風雨と重なり、交通機関への影響から欠席の連絡もありました。しかし、悪天候にもかかわらず16名の参加がありました。



(3) フォローアップ研修

■3月18日（日） 大田区産業プラザ PiO

■講師：櫻原雅人（NPO 法人はちくりうす 管理者）

石川明代（バリアフリー社会人サークル Colors 代表／大田おもちゃライブラリー じゃりかふえ 運営者）

■参加者：15名

■プログラム

① 開会の挨拶と福祉リノベーションスクール実施報告

② 基調講演「ガイドヘルパーに期待すること」

③ 地域活動ワークショップの報告

④ 参加者自己紹介（現状報告と展望）

研修修了後すぐにガイドヘルパーを始めた人、ガイドヘルパーに興味はあるが今は出来ない状況にいる方、まだガイドヘルパーを始めるか検討中の方、それぞれの立場の方が参加してくださいました。

■おわりに

2017年度後期に行なった3つの企画に対して、のべ55名の方が参加してくださいました。福祉リノベーションスクールでは、これまでの3日間のガイドヘルパー研修と比べると修了式を含めて5日間になったことにより講師と充分に対話をする時間を持てたと感じています。

日数が増えたことにより参加希望者が都合が付けられないという意見もあり課題は残りますが、この実践といただいた意見を元にしてこれからも継続してガイドヘルパー不足解消のために取り組んでいきたいと考えています。



特定非営利活動法人 風雷社中

東京都大田区東矢口 3-31-8 HASUNUMA-BASE 内

電話：03 (6715) 9324

Mail：guidehelper@fuu-rai.com